

幕末期の老中と情報

水野忠精による風聞探索活動を中心に

佐藤 隆一 著

【2013年9月刊行予定】

▶ A5判・500頁／定価9,975円(税5%込) ISBN978-4-7842-1702-1

滅びゆく江戸幕府にあって、その権力中枢にある老中たちは、公的な機関を駆使した周到な情報収集を行うとともに、一方で彼ら自身がその裁量を發揮してつくりあげた個人的な人脈による情報ネットワークにより、臨機応変に正確な情報を入手し、刻々と変わる情勢に応じた政策決定を行っていた。

本書は、水野忠精を題材とした老中の情報収集を軸に、同時代の他の事例も交えて、幕末期の老中による政治情報収集の実態とその情報内容、さらにはこれらの扱われ方を実証的に分析することで、基本的な老中の情報収集ルートの枠組を明らかにする。

悪戦苦闘と挫折をくり返しながらも国政を支え続け、結果的には敗者となった水野忠精ら幕閣の政治活動にも、明治新政府樹立への踏み台としての役割を認め、一定の歴史的評価を与える。

内容目次

序章 言葉としての「情報」と「風聞」「風説」

- 一 「情報」という言葉の由来とその用い方
- 二 「風聞」「風説」両語の意味と使い分け
- 三 混同されやすい「風聞」「風説」

第一章 老中と情報に関わる諸問題

- 一 幕末期の老中
- 二 幕末期の征夷をめぐる問題
- 三 井伊政権による風聞書
- 四 水野忠精と風聞書

第二章 島津久光卒兵上京・江戸出府に関わる情報収集

- 一 九州・畿内における情報収集
- 二 三嶋宿を通じた風聞書
- 三 東海道宿場通行の長州藩士
- 四 江戸市中の情報収集
- 五 島津久光江戸出府をめぐる諸情報

第三章 将軍家茂上洛をめぐる情報収集

- 一 将軍家茂上洛決定と情報収集
- 二 将軍上洛準備と京都情報収集
- 三 英艦横浜集結と将軍上洛経路の変更
- 四 将軍上洛と賀茂社行幸

第四章 攘夷・鎖港問題をめぐる情報収集

- 一 将軍家茂帰東問題と石清水社行幸
- 二 攘夷をめぐる幕府と長州藩
- 三 横浜鎖港交渉と家茂再上洛

第五章 元治の庶政委任と老中の往復書翰

- 一 家茂再上洛をめぐる政情と水野家文書『秘翰』
- 二 両都両港開市開港問題
- 三 天狗党の乱発生
- 四 横浜鎖港問題の行き詰まり
- 五 天狗党の乱の展開と幕閣

第六章 禁門の変に関わる情報収集

- 一 禁門の変発生
- 二 禁門の変をめぐる水野忠精の情報収集(その一)
- 三 禁門の変をめぐる水野忠精の情報収集(その二)

第七章 長州藩・天狗党・外交問題に直面する幕閣と情報

- 一 塩谷甲蔵・中村敬輔両名意見書にみえる長州征討論
- 二 第一次長州征討の開始
- 三 天狗党の乱終息と佐原騒動をめぐる状況
- 四 江戸幕閣と外交問題

第八章 水野忠精老中罷免をめぐる状況

- 一 江戸協約に関する外交折衝
- 二 水野忠精老中罷免をめぐる状況
- 三 老中罷免後の水野忠精

第九章 彦根・土浦両藩とオランダ風説書

- 一 彦根藩文書オランダ風説書の書誌的考察
- 二 土浦藩文書オランダ風説書の書誌的考察
- 三 彦根・土浦両藩オランダ風説書をめぐる諸問題

さとう りゅういち…1956年東京都生。青山学院大学大学院文学研究科史学専攻博士課程単位取得満期退学。専攻は日本近世史。
現在、青山学院高等部教諭。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	幕末期の老中と情報	本体9,500円(税別)	ISBN978-4-7842-1702-1	
お名前	tel				
	e-mail				
ご住所	〒				
送本方法	☐ 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) ☐ 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)		書店番線印		

明治維新期の政治文化

佐々木克編

“19世紀における国際環境の中で、明治維新を考える”という京都大学人文科学研究所の共同研究「明治維新期の社会と情報」の研究成果。政治史、文化史、思想史、精神史を融合した“政治文化”という視点から、明治維新期の諸問題にアプローチを試みた一書。

▶A5判・390頁／定価5,670円 ISBN4-7842-1262-0

阿蘭陀宿海老屋の研究 [全2冊]

片桐一男著・校訂

江戸参府途上、オランダ商館長や通詞が滞在した京都の定宿海老屋の史料「皇都阿蘭陀人宿(荷蘭館)文書」「村土家(阿蘭陀宿)文書」(神戸市立博物館蔵)を基に、阿蘭陀宿の目的・機能・史的意義を探索。史料篇には「御用書留日記」「シーボルト事件の廻状」など村土家文書の翻刻を収録。

▶A5判・総850頁／定価17,850円 ISBN4-7842-0966-2

※長崎奉行の研究

鈴木康子著

17世紀後期から18世紀中期の約100年間の長崎奉行の職掌や幕府内における長崎奉行の位置づけの変化、そして長崎奉行自体の特質が変質してゆく状況を解明し、その背景となる幕府の経済政策の推移や、日本側の外国人に対する意識の変化などについても考察を加える。

▶A5判・420頁／定価6,510円 ISBN978-4-7842-1339-9

近世長崎・対外関係史料

太田勝也編

近世の長崎町方や対外関係に関する史料4点を活字化。詳細な注と解題を付す。【内容】長崎御役所留(国立公文書館内閣文庫所蔵)／長崎諸事覚書(国立公文書館内閣文庫所蔵)／長崎記(東北大学附属図書館狩野文庫所蔵)／長崎旧記(筑波大学附属図書館所蔵)

▶A5判・728頁／定価16,800円 ISBN978-4-7842-1362-7

海国日本の夜明け

フォス美弥子編訳

オランダ軍ファビウス駐留日誌

長崎海軍伝習の起案者であり、日本海軍創設の助言者であったオランダ海軍中佐ファビウスの本邦初紹介の駐留日誌のほかその間の動向をつなぐ公文書や、長崎を舞台とした幕府や西南各藩との交流、英米艦隊との駆け引きなど幕末の日蘭史を明かす貴重な史料集。

▶A5判・400頁／定価5,250円 ISBN4-7842-1047-4

岩倉具視関係史料 [全2巻]

佐々木克・藤井讓治・三澤純・谷川稷編

憲政資料室所蔵文書・対岳文庫所蔵文書・内閣文庫所蔵文書に次ぐ、第4の岩倉具視関係文書群1,720点を完全活字化。東京貧都のいきさつを示す史料や、閣議議案や決議過程がわかる史料など、これまでに他の史料集などで紹介されていない未刊行書簡や書類多数。

▶A5判・総1,108頁／定価25,200円 ISBN978-4-7842-1659-8

岩倉使節団における宗教問題

山崎渾子著

神道皇国主義を宣言しキリスト教禁制のまま諸国歴訪に出かけることになった岩倉使節団は、その後の明治政府の宗教政策にどのような影響を与えたのか、『米欧回覧実記』を中心とした使節団関係史料を読み込むことで検証する。

▶A5判・250頁／定価3,990円 ISBN4-7842-1316-3

明治維新史という冒険

青山忠正著

佛教大学鷹陵文化叢書18

かつて「明治維新」は国家の模範であり、「勤王の志士」は国民の規範だったが、それらは国家が自らの基盤を固めるために創り上げた虚像である。平易な文体と豊富な図版・地図で明治維新史の魅力を紹介し、「幕末」「明治維新」認識を対象化した「近代」を捉え直す。

▶46判・332頁／定価2,520円 ISBN978-4-7842-1394-8

一八世紀日本の文化状況と国際環境

笠谷和比古編

日本の18世紀の文化的状況はいかに形成され、それらは東アジア世界、また西洋世界までふくめたグローバルな環境下で、いかに影響を受けつつ独自の展開を示したか。多角的にアプローチした国際日本文化研究センターでの共同研究の成果23篇。

▶A5判・582頁／定価8,925円 ISBN978-4-7842-1580-5

幕藩制国家の成立と対外関係

加藤榮一著

思文閣史学叢書

幕藩権力がどのような国際的環境のもとに国家支配の枠組を形成したのかを、「公儀」幕藩権力と連合オランダ東インド会社との関係史を基軸に、国際秩序の変動や東アジアおよびヨーロッパ社会の変革の過程の中に捉えなおした意欲作。

▶A5判・468頁／定価9,240円 ISBN4-7842-0954-9

近世長崎司法制度の研究

安高啓明著

長崎奉行所で構築されていた司法制度のもとでの、長崎奉行の司法的権限に迫った。また法の浸透過程と受容した長崎奉行所の法体系を見出し、判例集「犯科帳」から当時犯罪に関与した人間模様、裁判の実相を明らかにする。

▶A5判・504頁／定価5,985円 ISBN978-4-7842-1477-8

京都雑色記録 [全3冊]

朝尾直弘編

京都大学史料叢書

近世京都の雑色は所司代・町奉行の下にあつて町代と並ぶ行政の支柱となった役人であったが、特に警察権の行使にあたった点で注目される。本記録は上雑色五十嵐氏の諸記録と下雑色小島氏の留書をおさめたもので「雑色要録」の欠落部分をみたとともに、牢屋敷における日常生活・管理の様子を具体的に窺うことのできる第一級の史料。

▶A5判・各約400頁／定価各14,700円

※近代日本と幕末外交文書編纂の研究

田中正弘著

外交文書の編纂事情、編纂した外交文書集の内容構成、諸本の性格、また徳川幕府外国方の編集構想から明治初期外務省の編集組織の確立過程、太政官における幕末外交文書編纂の開始事情とその後の推移など、広範な第一次史料を駆使してその全容をはじめて具体的に考察。

▶A5判・480頁／定価10,290円 ISBN4-7842-0958-1

※岩倉使節団の比較文化史的研究

芳賀徹編

内外の史料を駆使し、比較文化・国際的視野から岩倉使節団を論じた共同研究。【内容】明治維新と岩倉使節団／アメリカにおける岩倉使節団／フィラデルフィア物語／イギリスにおける条約改正交渉／新聞にみる岩倉使節団のバリ滞在／岩倉使節団のイタリア訪問 他

▶A5判・358頁／定価6,825円 ISBN4-7842-1145-4

幕末・維新を考える

原田敬一編

佛教大学鷹陵文化叢書2

【内容】近代への描き方―錦絵の世界(原田敬一)／近代への道―19世紀の東アジアと西ヨーロッパ(青山忠正)／明治維新と古代文化の復興(高木博志)／維新変革期の人間像―高杉晋作のことども(梅溪昇)／大久保利通の遺書(佐々木克)／史跡と人物を訪ねて(青山忠正)

▶46判・184頁／定価1,785円 ISBN4-7842-1038-5

西洋化の構造 黒船・武士・国家

園田英弘著

「蒸気船の時代」から始まった日本の近代化の特質と諸相を明かし、従来の近代化論に一石を投じる。【内容】「極東」の終焉―黒船前史／蒸気船ショックの構造／海防の世界―共有世界の成立と展開／郡県制の武士―武士身分解体に関する一考察／森有礼研究・西洋化の論理 他

▶A5判・380頁／定価7,875円 ISBN4-7842-0801-1

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。